

産業動物臨床学研究室について

岩手大学農学部 共同獣医学科 産業動物臨床学研究室
准教授 高橋正弘

例年、秋のこの時期になると、そろそろ山にキノコが出ていないか偵察に行った方がいいかなと考えてしまいます。今年も平庭高原の山に行ったのですが、鹿が増え過ぎて下草が減り、また木材価格が高いせいか木が伐採されハゲ山が増え、大分山の環境が変わってきたようです。今年は何回か足を運んだのですが、松茸以外のキノコは全体的に不作のような感触ですが、どんぐりは山の地表に沢山落ちていて豊作のようです。熊さんは今年の冬は安心して冬眠できそうです。

私は産業動物臨床学研究室に在籍し、2014年2月に大阪府立大学から岩手大学に着任して11年目になります。その前は小岩井農場11年間、NOSAI岩手北部3年間、大阪府立大学4年間で大変お世話になっております。産業動物臨床学研究室から岡田啓司先生が退職後、ここ数年学生の配属がなかったため、ソロキャンプならぬソロ研究室で満喫しながら、すべて一人で運営しておりました。今年の10月から待望の4年生2名が入室することとなりました。また、8月1日付で東京大学大学院農学生命科学研究科から猪熊壽（いのくまひさし）先生が、産業動物臨床学研究室の方に在籍しています。猪熊先生は共同獣医学科にクロ

ス・アポイントメント教授として着任して、岩手大学25%+東京大学75%ということで、月に5日間岩手大学で勤務しています。おそらく東大での仕事は減っていないと思いますので、125%くらいのエフォートで頑張っておられますので、お体には気を付けていただきたいと思います。岩手大学では主に共同獣医学科の研究教育を盛り上げていただくこととなりますが、猪熊先生と一緒にお仕事できることに期待を膨らませております。

今現在、研究の方は岡田先生とともにJRA牛削蹄支援システム研究開発事業に参画しており、今年度も牛の蹄病や削蹄に関する研究を実施しております。また学生も入ったので、予算次第ですが牛の経膈採卵（OPU）や受精卵移植関係の研究も再開したいと考えております。動物病院の診療業務では牛の採卵業務を行っていますので、希望の農家さんがいましたら、相談に乗りますので私までご連絡いただきたいと思います。

授業の方は、上の先生が退職されるごとに雪だるま式に増えて来ており、年中実習講義に追われている感じがします。担当している科目は、大動物臨床実習・基礎編、大動物臨床実習・応用編、産業動物臨床学Ⅱ、



大動物臨床実習での牛の仰臥位開腹手術



動物衛生学実習でのブタのハンドリングならびに採血

動物衛生学実習，総合参加型臨床実習Ⅴ・Ⅵ（岩手大），総合参加型臨床実習Ⅴ・Ⅵ（東京農工大）などです。東京農工大の総合参加型臨床実習Ⅴ・Ⅵは2016年から始まっており，9年間実施責任者としていろいろ段取りを取って実施してきました。コロナ期間は対面で実施できず，オンデマンド実習などコンテンツ作成などで対応し大変な時期がありましたが，基本的に連続2週間農工大生が岩手大学に来て実施する内容となっております。1週目は御明神宿舎に泊まりながら，御明神牧場や動物病院内で大動物の内科，外科，繁殖の実習を行います。2週目は市内ホテルに宿泊しながら，

くずまき高原牧場，小岩井農場，NOSAI 岩手のご協力により学外での疾病症例を診察するフィールド実習を行い，また疾病牛を病院内で診察，手術，病理解剖を行う実習を並行して実施しています。最終日には恒例の症例検討会を行い，多くの症例をみんなで勉強する機会となっています。授業を通して，産業動物の診療に興味を持ってもらえる講義や臨床現場で役立つ実習を心掛け，日本の畜産をリードできる即戦力を有する産業動物獣医師を育てていきたいと思っております。

